

嵐山町も気候変動ストップへ

昨年10月12日の台風19号などの自然災害の多発や猛暑による熱中症などは海の水温の上昇による地球の変化です。自然や人間社会・生態系の変化は危機です。

地域からできること・嵐山町からできることは
森林面積を減らさないこと・CO₂の排出0に近づけること。



吉見町焼却場中止は、よかったー

大きな問題は3つ

- ① 32年前のごみ焼却場建設時に焼却場建設の差止裁判が提訴されました。
裁判の和解で「今後吉見町大串には焼却場建設はしない」条項への違反
- ② 吉見町大串は、市野川・荒川にはさまれた地域で、水害・地震時にはハザード、マップで、不適。地盤がもろく、施設までごみ運搬が難しいこと。
- ③ 嵐山町からは遠すぎて、収集運搬費が今までの3倍になること

■ ゴミ焼却施設中止の表の理由は 温水プールや、農産物の直売所の運営費を、9市町村が出すか、吉見町がだすかが平行線。

■ これ以上公金を注ぐことはできない……現宮崎善雄吉見町長の判断です。
賢い判断です。……用地買収の前・事業者の決定前で、20年間456億円の巨額計画の実行前でした。

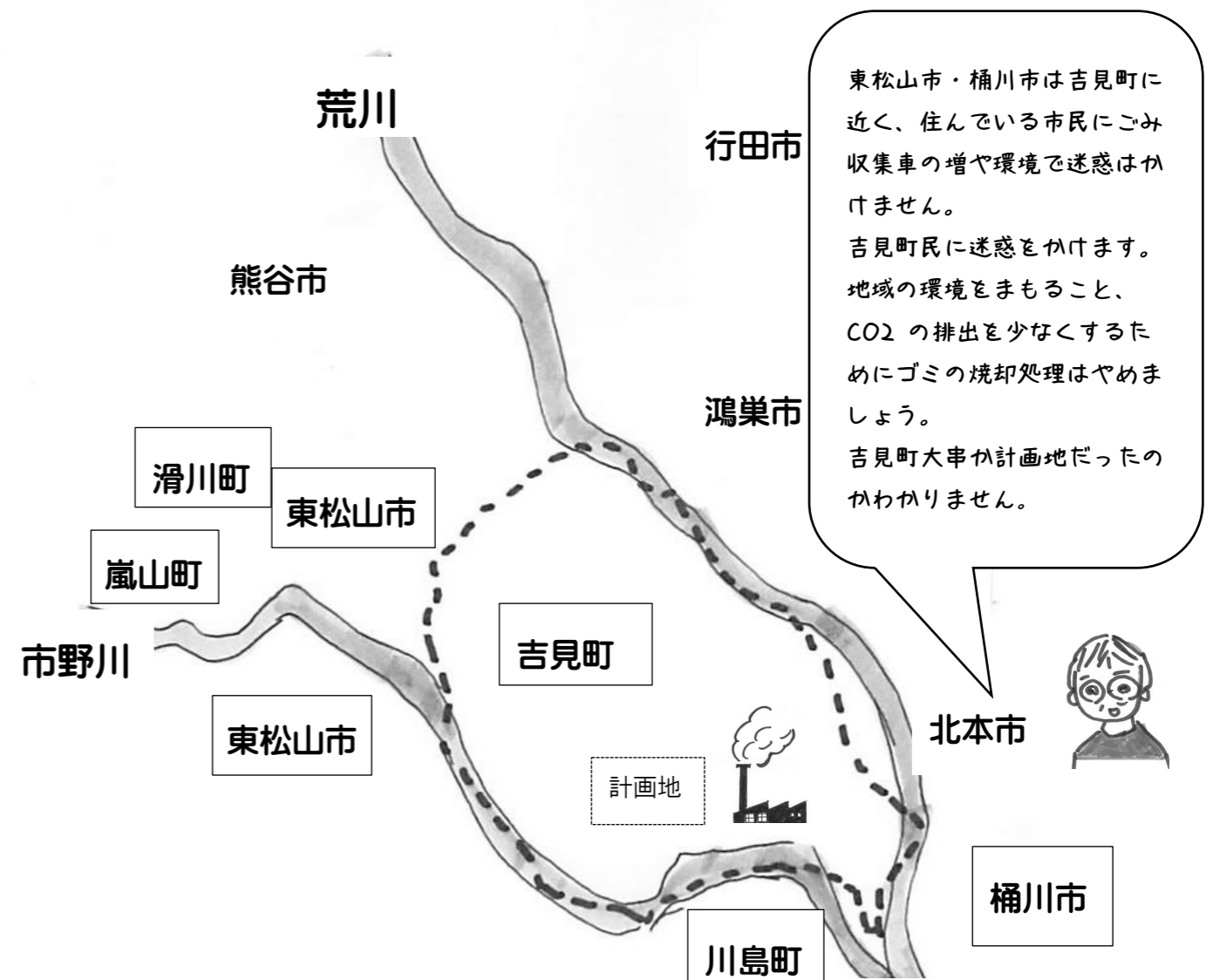
裏の理由があります。なぜ、吉見町大串にしたか、経過を明らかにしたくないらしい。

この地区を選んだ会議録を、情報公開請求しているのです。が、非公開。

情報公開できない不都合とはー

吉見町大串は地盤がもろいので、地震時危険です。低地なので荒川・市野川の堤防がきれたら危険です。

32年前の裁判の和解を破ってこの場所を選んだのか……明らかになると困ること？



ーごみ焼却処理をやめましょう。

気候変動から地球を守ろうー
ごみはCO₂や環境ホルモンをださない処理へ

